

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 20 日現在

機関番号：32605

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20401048

研究課題名（和文） 人間と動物の関係をめぐる比較民族誌研究：コスモロジーと感覚からの接近

研究課題名（英文） A Comparative Ethnographic Study on Relations Between Men and Animals: Approach From Cosmology and Sense

研究代表者

奥野 克巳（OKUNO KATSUMI）

桜美林大学・人文学系・教授

研究者番号：50311246

研究分野：文化人類学

科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学

キーワード：人間と動物、民族誌、人類学、フィールドワーク

1. 研究計画の概要

地球上の幾つかの生業を異にする社会を取り上げて、文化人類学的な参与観察とインタビューを組み合わせた調査手法をつうじて、人間が動物をコスモロジカルにどのように表象し、感覚器官を用いてどのように動物に接しているのかに関して、人びとの実践と語りの両面において実証的に解明し、開発やグローバル化による商品経済の浸透によって、それらの関係がどのように変容しつつあるのかの地域偏差を視野に収めながら、そのような諸地域からの民族誌の成果を比較することをつうじて、人間と動物をめぐるとの関係について考察する。

2. 研究の進捗状況

(1)平成 20 年度から 22 年度までの 3 年間にわたって、研究代表者、研究分担者、研究協力者など、各研究メンバーが、地球上のそれぞれの研究対象地（マレーシア・サラワク州のプナン、中国・新疆・イリ＝モンゴル地域、エチオピアのボラナ、コモロ、パプアニューギニアのアンガティヤ、ラオスのカントウ、現代日本の神経生理学研究室）において現地調査を継続的に実施した結果、数多くのデータを取得することができた。同時に、研究対象地の近くの都市の研究機関やアーカイブなどで、テーマに関する諸文献にもあたることや、さらには、当該テーマに関して現地の調査研究者とも意見・情報を交換することもできた。全体としては、世界各地における調査研究活動の実施により、人間と動物の関係をめぐって、民族誌の観点から比較検討するために必要なデータを得ることができた。そ

うした調査活動と並行して、これまでのところ、年に 1～2 回のペースで研究集会を開催して、そこで、内容に関する検討と議論を行ってきた。さらには、研究の途中経過を日本文化人類学会の大会やその他の諸研究会において口頭発表して議論し、関連する領域を研究する研究者たちから意見や情報などを求めながら、研究内容のアップグレードに努めてきた。

(2)こうした研究活動をつうじて、「人間と動物の駆け引きの民族誌」という、科研全体のトピックを設定するようになった。現在、各研究メンバーは、取得データの分析を行いながら、本科研プロジェクトの成果公刊（2011 年 9 月予定）のための論文（原稿用紙 80 枚）を執筆中である。

3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。

（理由）

第一に、各メンバーの積極的な現地調査により、第二に、継続的に研究集会を開催してきたことにより、人間と動物の関係という主題に関して、これまでの研究にはない独自性のある研究成果の見通しを得ることができたため。

4. 今後の研究の推進方策

(1)これまでの研究集会において、「人間と動物の駆け引きの民族誌」を主要テーマとして、全体の研究プロジェクトをまとめ上げる方向で、話を進めてきている。

(2)当該テーマに関して、現在、諸文献に照らし合わせながら、データを解析し、各自原稿用紙 80 枚の論文を執筆中である。

(3)今後は、本年 5 月に、研究集会を開催して、論文の内容を検討し、精緻化したうえで、9 月を目処に出版刊行し、中間経過・成果を広く公に問うことで、フィードバックを受けながら、当該テーマに関して、研究を深めてゆきたいと考えている。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

- ① シンジルト 牧畜民にとってのよいこと：セテル実践にみる新疆イリ＝モンゴル地域の自然認識の動態 『中国 21』 第 34 号 135-162 2011 年 査読無
- ② 奥野克巳 ボルネオ島プナンの『雷複合』の民族誌：動物と人間の近接の禁止とその関係性 中野麻衣子+深田淳太郎共編『人＝間の人類学：内的な関心の発展と誤読』125-142、はる書房、2010 年 査読無
- ③ 花瀨馨也 不確かな他者として振舞う技法－コモロにおける精霊憑依と自己変容－ 『文化人類学』74(3) 459-477、2009 年、査読有

[学会発表] (計 12 件)

- ① 奥野克巳 ボルネオ島狩猟民プナン社会における動物と人間：近接の禁止と魂の連続性 日本文化人類学会 第 44 回研究大会 立教大学 2010 年 6 月 12 日
- ② 池田光穂 「自然」と「文化」の境界面：神経生理学研究室の事例検討 日本文化人類学会 第 44 回研究大会 立教大学 2010 年 6 月 12 日
- ③ シンジルト 聖なる動物が解き明かす自然と人間の関係：個性性、日常性、持続性 日本文化人類学会 第 44 回研究大会 立教大学 2010 年 6 月 12 日
- ④ 奥野克巳 動物は自然的存在か？：狩猟民プナンの魂の存在論 熊本大学大学院社会文化科学研究科・フィールドリサーチセミナー「自然と文化のインターフェイス」熊本大学 2009 年 12 月 19 日
- ⑤ Katsumi Okuno Men, Thunder God, Animals among the Western Penan of Belaga, Sarawak, 9th Borneo Research Council International Conference 2008 Universiti Malaysia Sabah 29 July 2008

[図書] (計 3 件)

- ① KONAGAYA Yuki, SHINJILT, NAKAWO Masayoshi(eds.) Ecological Migration: An Environmental Policy in China, 2011, 312pp.
- ② 池田光穂『看護人類学入門』文化書房博文社、2010 年、265 頁
- ③ 花瀨馨也・吉田匡興・石井美保共編 『宗教の人類学』春風社、2010 年、275 頁

[その他]

-生命の多様性を維持しなければならないという論理

<http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/user/rosa1do/EcoData01.html>

-Handmade Life: Exploring The Environmental Consciousness and Subcultures of Young Japanese and Thais.
<http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/user/rosa1do/101111ecoeco.htm>

- 「自然」と「文化」の境界面

<http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/user/rosa1do/100612animals.html>